

昭和五十三年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第四号

館山市議會

目次

開 議	二
議案第五十四号、議案第五十六号	二
総務委員会委員長報告	二
同報告に対する渡辺軍治郎君の質疑、渡辺軍治郎君の討論	四
採 決	六
議案第五十七号	七
文教民生委員会委員長報告、採決	七
議案第五十八号	八
建設経済委員会委員長報告	八
採 決	九
請願第二号	九
総務委員会委員長報告、継続審査について	九
議案第四号	一〇
内容説明、渡辺軍治郎の質疑	一〇
石井輝久君の質疑	二
議案の訂正、渡辺軍治郎の討論	三
採 決	四
日程の追加、議案の配付	四
議案第五号	五
内容説明、渡辺軍治郎君の質疑	五
委員会付託の省略、渡辺軍治郎君の討論	六
採 決	七
閉会、本日の会議に付した事件	八

昭和五十三年十二月二十三日（土曜日）午前十時	
一、館山市役所議場	
二、出席議員 二十八名	
一番 吉田勇治郎	二番 伊藤幸太郎
三番 矢戸寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川平治	六番 鈴木正義
七番 本間昭二	八番 松下正己
九番 鈴木 稔	一〇番 流山源次郎
一番 近藤好雄	一二番 栗原一雄
一三番 林 豊	一四番 石井輝久
一五番 辻田 実	一六番 安西益男
一七番 石井武敏	一八番 渡辺軍治郎
一九番 渡辺昭夫	二〇番 和田一郎
二一番 五十嵐 昇	二三番 菊井敏博
二四番 西村真次	二五番 伊賀多明
二六番 藤田益治	二七番 速山ヨネ子
二八番 石井 正	二九番 望月照正
一、欠席議員 二名	
二一番 田中祿郎	三〇番 山口 康
一、出席説明員	
第一号に同じ	
一、出席事務局職員	
第一号に同じ	
一、議事日程（第四号）	
昭和五十三年十二月二十三日午前十時開議	

議案第五十四号 館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第五十五号 館山市災害住宅復旧資金の貸付けに關する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第一

議案第五十六号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第五号）

日程第二 議案第五十七号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

日程第三 議案第五十八号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第四 請願第二号 一般消費税に關する請願書

日程第五 發議案第四号 元号法制化に關する意見書について

開 議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第四回市議会定例会第四日の會議を開會し、直ちに本日の會議を開きます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、議案第五十四号ないし議案第五十六号の各議案を一括して議題といたします。

議案第五十四号 館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第五十五号 館山市災害住宅復旧資金の貸付けに關する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十六号 昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第五号）

総務委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各議案は、去る十二月十九日の本會議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

（総務委員会委員長栗原一雄君登壇）

○総務委員会委員長（栗原一雄君） 第四回館山市議定例会において去る十二月十九日総務委員会に付託されました一般議案二件補正予算一件について、翌十二月二十日委員会を招集し、各議案の内容審査を行いました。

その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず初めに、議案の審査結果について申し上げます。

議案第五十四号館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第五十六号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算（第五号）について慎重なる審査の結果、以上の二議案についてそれぞれ賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第五十五号館山市災害住宅復旧資金の貸付けに關す

る条例の一部を改正する条例の制定について全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の過程における主なる事項について申し上げます。

議案第五十四号につきましては、条例改正に伴い実質三・〇九%アップするとの説明がありました。なお本市の独自性についての質疑に対して、県の人事委員会が地域の実態に即しており、一つの目安としているが、自主的な判断で決めたものであると答弁がありました。本委員会は特に三カ月昇給延伸について、職員の士気等に強い影響を及ぼすので、特別に善処されるよう強く要望がなされました。市長より今後の財政事情の推移をみながら何らかの形でこれに対処する措置を考えたい旨の答弁がありました。

次に、議案第五十六号につきまして、提出された説明資料に基づき幅広く各款にわたり質疑が行われ、今後さらに改善すべき点検討を要する事項等について市当局の考え方をただし、要望しつつ審査を行った次第です。

歳出総務費中報償金弁護士謝礼について、長い期間に及ぶ紛糾の原因、今後に対する市当局の考え方をただしたところ、民法第六百九十七条の事務管理の問題として入園の禁止、制限をするよう市に要求したものであるが、市はその必要を認めないとの理由から市民の一人として要求しているものであるとの説明があり、これに十分研究をして対処するよう強く要望をいたしました。

次に、衛生費中し尿処理場予定地の地質調査委託料について、予定地として買収交渉の話し合いの状況の中で事前調査が問題にならないかとただしたところ、岩盤調査をしなければ建設費を算出することができない、また変更のおそれもあるので、県と協議

の段階で先に済ませたほうがよいとの指導もあり、地主には必要な調査を進めさせてもらうことで了解を得ている旨の説明がありました。

なお、調査の方法、場所として四隅及びその対角線の真ん中を考えているとの答弁がありました。

農林水産業費の質疑の中で、水田利用再編対策特別交付金について、市の実施した奨励交付金は転作を実施した水田に対して交付しているが、国のものはこれと違うので、市における配慮で国の補助金及び交付金が得られるものについては農民の立場で措置されるよう強く要望がなされました。

次に、商工費中地域商業振興計画策定事業補助金について、特に商店街の道路問題、将来予測される大規模小売店の出店及び駅から北側商店街の三点を中心に調査を行い、計画策定を考えているとの説明があり、どのようなものができるのか、作文だけに終るとむだになるおそれもあるので、実効あるものに十分指導をしてもらいたいと強く要望をいたしました。

次に、教育費の中で館山小学校校舎増築については、防音校舎として新築したばかりだが、設計、建設の時点で児童数の増加の推計資料は得られなかったのか、今後の建設にあたっては児童数の増減について十分な資料を求め、的確な把握に努力されるよう強く要望をいたしました。

以上、本委員会に付託されました議案三件について総務委員会における審査の概要を御報告申し上げます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして総務委員会の報告を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長（吉田勇治郎君） ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 二つばかり質問したいと思うんですが、第五十四号の給与条例の改定の問題ですが、これは議案審査の中でかなり道義もされましたけれども、納得できない面があるわけです。というのは、館山市だけが県下で昇給の三カ月延伸というようなことをやっているわけですが、なぜ館山市だけがやらなければならぬのか、そういう根拠について。ただいまの委員長の報告では、県人事委員会が民間とか、そういうようなところを審査した結果ということがいわれましたけれども、県人事委員会が出しているのを各市町村が否定している。すぐやらないという点があるわけです。館山市がやっているのは特別の理由がなければならぬと思うんですが、その点がどのように常任委員会で審査されたかお聞きしたいと思っています。

それから、議案第五十六号についてですが、一般会計の補正予算は議案第五十四号との関連で同時提案されております。ということは、第五十四号の議案が可決されなければこの補正予算は全部再編成しなければいけなくなるはずであります。この点はどういうふうに委員会でもって審議されたか。

二つの点についてお伺いいたします。

○総務委員会委員長（栗原一雄君） 一八番議員さんの御質問に対してお答えいたします。

ただいま委員長報告といたしまして報告いたしましたとおり、付託された案件につきましてはただいま委員長報告を申し上げたとおり、五十四号につきましては独自性で解決したとこのように報告いたしております。そのとおり付託された案件についてこまかく審査を行いました。以上でございます。

それから、五十六号につきましても、当然五十四号を含めまして角度の高い審議いたしました。以上でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） いまの委員長の答弁では、ちょっと困るわけですけれども、私が聞いた特別の事情というのは、独自性と言っても独自性の内容がわからないものですから、それで質問したんで、それはそれとしても、補正予算についても私が質問したのは、同時に提案しているけれども矛盾しないかというんですが、追求しても無理だと思えますが、一応これで……。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

通告がございますので、順次発言を許します。

一八番渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は議案第五十四号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この給与条例の一部改定は、給与条例第十五条第二項中「百分の二百」を「百分の百九十」に改め、十二月の期末手当を〇・一

カ月分削減することと、さらに附則で定期昇給期間を三カ月間延伸することによって、人事院勧告の三・八四%の給与水準引上げを實質三・〇九%に引き下げようとするものですが、市長の提案説明や審議の中で明らかになったことは、今回の給与改定が県人事委員会の勧告に従ったもので、上意下達 of 全く自主性のないのであるということでありす。

その特長は、県下二十六市の中で、定期昇給の延伸を実施したのは館山市だけだということでありす。なぜ館山市だけが昇給の延伸を行わなければならなかったのか。その根拠は全く不明確でありす。

五十一年三月に昇給の延伸を六カ月ないし九カ月行ったことがありす。当時の館山市は赤字財政というやむを得ない事情がありました。今回は五十二年度決算に見られるように二億一千万円余の黒字財政の中で、昇給を延伸しなければならない特別の事情は考えられせん。

また、期末手当の〇・一カ月分の削減についても、ほとんど市の町村が今年度の実施を見送っているのに、すでに支給済みの期末手当を附則を設けてまで三月の期末手当で取り返さなければならぬのか。子供じみていて理解ができません。

地方公務員の給与水準の引上げは、人事院勧告に基づいて県人事委員会が勧告を行っておりますが、人事院勧告はいつも物価上昇率を下回ったものになっているのが実情であります。県人事委員会は民間企業の給与水準やラスパイルズ指数を問題にしているようですが、労働力の再生産である消費生活から見れば館山市は特に物価が高いというのが定評であります。また、ラスパイルズ

指数も人事構成では、国と県、県と市町村ではそれぞれ違いがあり、一律にはいかな問題であります。

特に、地方公務員は、一般企業の労働者と違い住民に奉仕するという側面が重視され、身分保障されていると思います。したがってすでに決定され、実施されている期末手当や定期昇給の制度的な一定の率が身分保障の中身であって、これを根拠もなく引き下げることは既得権の侵害になるのではないかと主張しました。これに対して、給与は条例で決定するので既得権の侵害にはならないと答弁していますが、最終的には議会が決定するにしても、条例の提案は市長の権限で行われるので、市長の責任に属するものであります。

今回の給与の削減が県人事委員会の勧告に従ったというだけでは根拠がなく、説得力を持たないもので、市職員組合との合意が得られないのは当然であろうと思います。

市長は、就任以来欠員不補充で人減らし合理化を行ってきました。これが労働強化になるのは必定であります。その上給与の引下げを図るといふのは、市職員が市民に対する奉仕者であるという側面を見ない企業的な発想によるものとか考えられせん。館山市だけが県人事委員会の勧告に忠実に従ったのもそのあらわれであると思います。

今回の給与条例の改定は、上だけを見て下を見ない独善的なヒラメの行政であって、職員の労働意欲を失わせるものでしかないと指摘し、議案第五十四号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定に反対するとともに、本議案の撤回を要求するものであります。

次に、私は議案第五十六号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算に反対の討論を行います。

この補正予算は、歳入歳出それぞれ三千二百九十二万六千円を追加しようとするのですが、その内容は、議案第五十四号館山市職員給与条例の一部改定との関連で、給与の上昇分五%を見込んだ当初予算との差額を減額補正したのが主なものになっています。給与関係費で約六千六百万円の減額補正をしています。このうち一般職員の給料二千七百十一万六千円、期末手当千五百一十五千円の減額補正についてですが、私は県人事委員会の勧告に追従して期末手当の〇・一カ月分の削減、定期昇給三カ月間の延伸を行った議案第五十四号は時宜を得ない不当なものとして反対しました。したがって一般職員給与の減額補正を認めることはできません。

なお、この補正予算が議案第五十四号の給与改定と同時に提案されたことについてですが、議案第五十四号の給与改定が議会で可決されるかどうかは未定であったのに、これと関連する補正予算案が同時に提出されたことは、議案の成立を一万的に見越したもので、議会を無視した独断的な市長の政治姿勢に対して強く抗議します。

よって、議案第五十六号昭和五十三年度館山市一般会計補正予算に反対するものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で通告者による討論を終わります。通告をしない議員で他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終わります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決を行います。

採決にあたりましては、分括して採決いたします。

採決は起立により行います。

まず、議案第五十四号について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告により可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本案は委員長の報告により可決されました。

次いで、議案第五十五号について採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告により可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は委員長の報告により可決されました。

次いで、議案第五十六号について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。本案を委員長の報告により可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本案は委員長の報告により可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第五十七号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算を議題といたします。

議案第五十七号 昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算(第一号)

文教民生委員会委員長報告

○議長(吉田勇治郎君) ただいま議題となりました議案は、去る十二月十九日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長近藤好雄君御登壇願います。

(文教民生委員会委員長近藤好雄君登壇)

○文教民生委員会委員長(近藤好雄君) 去る十二月十九日の定例市議会におきまして文教民生委員会に付託されました議案第五十七号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算につきまして、十二月二十一日委員会を招集し、慎重審議いたしました。その審査の結果及び経過について御報告申し上げます。

今回の補正の主なものであります高額療養費に関しましては、その対象と内容について特に老人医療費を取り上げ具体的な説明を求めました。

次いで、国保会計におきます超過負担及び一般会計からの補てんについての考えをただしました。これらに対しまして市当局からの詳細な説明があり、超過負担に対しては国保制度そのものの改善への期待や独立会計でやるべき考えなど述べられました。

また、特に健康教育の必要性を求めたところ、当局から本市は本年度の健康指定地域としての指定も受けており、これに対する

取り組みや市民の体力づくりへの努力、そして近い将来コミュニティセンターの構想の中で健康教育も進めたいとの意向が示されました。

このほか予備費の増額についての質疑もなされましたが、医療費の予測の困難性と不測の事態に対処するものであるとの説明を受けた次第であります。

以上、審議におきます主な点を申し上げましたが、議案第五十七号につきましては全員一致をもちまして原案どおり可決すべきものと決しましたので、満場の御賛同をお願いいたしまして、文教民生委員会の報告を終わります。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。通告による討論者はございませんが、他にございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は委員長報告どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第五十八号昭和五十三年
度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第五十八号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正
予算（第二号）

建設経済委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました議案は、去る
十二月十九日の本会議において建設経済委員会に付託されたもの
であります。

よって、これより建設経済委員会における審査の経過並びに結
果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）（拍手）

○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 去る十二月十九日の定
例議会で本建設経済委員会に付託されました議案第五十八号昭和
五十三年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）につきま
して、十二月二十一日午後一時委員会を開き慎重に審議いたしま
した。その結果並びに経過について御報告申し上げます。

議案第五十八号昭和五十三年度館山市水道事業特別会計補正予
算（第二号）につきましては、出席全委員原案どおり可決すべき
ものと決定いたしました。

次に、審議経過につきまして御報告申し上げます。

七十二ページ水道事業変更認可申請書作成委託料について問いま
したところ、現在簡易水道二カ所、上水道二カ所の四つの水道で
認可されているが、現実には管末で結んでいる。これを一つの水

道に統合して将来の水源、浄水場の改良を実施していきたいとい
うことで、その前提条件になる認可を得ようとするためのもので
ある。これをしなければ改良工事をやるのに起債申請ができない
旨の答弁がありました。

さらに、説明資料二〇ページの水源施設等改良工事の内容につ
いてただしましたところ、山本浄水場改良工事が一番大きい、山
本の水源は地下水で井戸が十本あり、ポンプの二十四時間稼働に
より揚水しているが、夜間の給水量が少ないときはオーバーした
水が流れてしまっているのでむだがあることから、この水を昼間
に利用する工事である。

配水管種変更工事は、東電が上野原地区にケーブル埋設するこ
とから、話し合いの結果延長四十二メートルの石綿管を鋼鉄管に
かえる工事で工事費全額を東電がもつことになっている。

配水管工事は、昨年度作名に関連する配管を行ったけれども、
館山地区において積み残したものがあつたのでこれを予定してい
るとの回答がありました。

以上の件のほかに、さらに詳しく質疑が次の要領でありました。

一般職員と水道関係職員との賃金の比較、薬品使用についての
執行部への細目にわたる問いから、特に山本地区における地下水
汲み上げによる地元住民に対する地質の変化等はないかの行政上
における要望と、水道料金の徴収方法から指定金融機関が千葉銀
行である旨の答弁を得、林道用地購入から観光面への利用、企業
債の借入先、償還期限、利率につきただし、市民負担の軽減を考
えるよう申し入れ、現在までの起債高二十億一千五百五十万円で
ある回答を最後に審議を終りました。

以上のとおり審査の概要を申し上げ、満場の御賛同を賜ります

ようお願いいたしましたして報告を終わります。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長長の報告を終わります。

ただいまの委員長の報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。通告者による討論はございませんが、他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は委員長長の報告どおり可決されました。

請 願 書 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第四、請願第二号一般消費税に関する請願書を議題といたします。

請願第二号 一般消費税に関する請願書

総務委員会委員長報告

○議長(吉田勇治郎君) ただいま議題となりました請願書は、去る十二月十九日の本会議において総務委員会に付託されたもので

あります。

よって、これより本請願書に対する総務委員会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長栗原一雄君御登壇願います。

(総務委員会委員長栗原一雄君登壇)

○総務委員会委員長(栗原一雄君) 本委員会に付託されました請願第二号一般消費税に関する請願書について、二十日委員会を招集し、審査を行いました。以下、審査の経過について御報告申し上げます。

本請願書につきましては、国政における重要な政治課題として論議されておる問題であり、なお慎重に審査を要するとの観点から閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承賜りますようお願い申し上げます。

○議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長の報告を終わります。

継続審査について

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり本請願書を閉会中の継続審査といたしますことに御異議ございませんか。

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議があるようでございますので、採決いたします。

(「委員長報告に対する質疑はなぜやらないんですか。」と呼ぶ者あり)

○議長（吉田勇治郎君） 継続審議ですから……。

暫時休憩いたします。

午前十時四十分 休憩

午前十時四十三分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

採決いたします。

ただいまの委員長報告のとおり本請願書を閉会中の継続審査といたしますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本請願書は継続審議と決定されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、発議案第四号元号法制化に関する意見書についてを議題といたします。

議案の明読を願います。

（書記朗読）

発議案第四号 元号法制化に関する意見書について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。

（二三番議員菊井敏博君登壇）

○二三番（菊井敏博君） 発議案第四号元号法制化に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

元号につきましては、古くから公私文書をはじめあらゆる面で

使用され、日常生活に密着したのになっております。また世論調査におきましても多くの国民がこの存続を望んでいることも明らかにされておりますが、現状では法的根拠が不明確なため、元号法制化の論議が各方面において行われていることは御承知のとおりであります。

そこで、この際、本市議会といたしましても、元号を日本独自の歴史的伝統として存続するため、一世一元の法制化を政府に要望すべく、お手元に配付のとおり六名の賛成者を得て本案を提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で説明は終わりました。

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 質疑に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明ですが、元号法制化はいまかなり論議されている問題で賛否両論があることは御承知のことと思いますが、なぜ元号を法制化しなければならぬのか、その点がはっきりしていません。説明では、この文書にもありますように、「国民生活のあらゆる面に慣習として広く定着している。」、こうあります。確かに私たちは何の不自由も感じていないわけです。届けにしてもいろんなことで昭和何年というふうに書いてあるわけですが、またこれを使わないで西暦でやっている人たちもあるわけです。両方がそういうふうに慣習的に何の不自由もなく使っているやつをなぜ法制化するのか。一たん法制化さ

れますと、法律に基づいてあらゆる文書、あらゆるものが元号を使わなければならない、これに反すれば法律違反として罰せられるわけです。そうなる就非常に不自由なものになるわけです。なぜいま自由にやっているものを法制化しなければならぬのか、それを言っているわけです。

それから、歴史的伝統としてなぜ存続しなくちゃいけないのか。われわれは、歴史はやはり民族のつくったそういうものを継承してきているわけです。その中からよいものを発展させ、悪いものにはふたをしていくというような、そういう歴史的というものを尊重しているわけです。ただ元号だけが歴史的伝統として、特にそういうことが必要だということではなくて、元号そのものもあらゆるあれで変わってきておりますが、それは歴史的事実なんです。当然、そういうことで、こういうことをなぜ法制化して決めなければならぬのか、その点についてまずお伺いしたいと思います。

あとで関連がありますが、それをお聞きいたしましたして、関連ではいまの政治情勢からくる問題でありますから、この質問のあとで行いたいと思います。

〇二三番（菊井敏博君） 提案理由の中でも御説明申し上げましたが、渡辺さんは賛否両論とおっしゃいましたが、賛否両論の中でも国民の大多数が存続を望んでいることは渡辺さんもよく御承知のとおりであります。そこで、現状では法的根拠が不明確なために、日本独自の歴史的伝統として存続させたいため法制化を要望するものでありますので、渡辺さんも御理解願いたいと思います。〇一八番（渡辺軍治郎君） この問題は、説明では国民大多数が望んでい

る、というような実証はないんですよ。合意を得てないんです。賛否両論があつて、はっきり大多数が望んでいるということが計数的に明らかになっていれば別ですけれども、そういうことではないわけです。だからまだ国民の合意を得てないものを法制化するということは無理がある。そのことを言っているわけです。その点はどうなんですか。

〇二三番（菊井敏博君） それは渡辺さんと私との意見の相違でございまして……。〇一八番（渡辺軍治郎君） 元号法制化が問題になっているとい

ことは、いまの歴史的な情勢をみますと、軍国主義の復活が相当進むという方向が出てきているわけです。

その第一点は、先般「君が代」を国歌化す、教育指導要領の中でも「君が代」を国歌として歌えというようなことを入れる、というような防衛庁長官から文部大臣に押し付けられたというような形で出されている。教育勅語を礼賛するようなことも事実起っているわけです。それから弁護人拔きの裁判をやるようなことも出ているわけです。いまの政治姿勢が軍国主義の復活、最近出ている有事立法や何かとの関係で、かなり歴史を後退させるような方向に進んでいるものと結びついてこの元号の法制化というものが出てきているところに私は問題がある、そういう点でこれを問題にしているわけで、その点はどういうふうにお考えになってますか。

〇二三番（菊井敏博君） こういう答弁非常にむずかしいんですけども、日本共産党の渡辺さんでないとすればある程度この問題御理解願えると思うんですけども、その点は十分私どもは審議

してこれを提案しているわけで、ひとつ渡辺さんにも十二分の御理解を願いたいと思います。

○一四番（石井輝久君） 一、二御質問を申し上げます。

この意見書案ですと、「千三百年の長い間にわたり」——千三百年という歴史的な御説明があるわけですが、千三百年前という又何天皇——この元号というのは天皇制とともに使用された、これは歴史的な事実でございますので、意見書案によりますと元号は千三百年前に始まったという御説明です。おそらく慎重に提案者は歴史的な事実をお考えの上「千三百年」とうたったようにございますが、一体何天皇の時代であったか、提案者に質問いたします。

○二三番（菊井敏博君） いま資料を取り寄せていますから……。

（笑声）

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前 十時五十五分 休憩

午前十一時 十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○二三番（菊井敏博君） 先ほどの石井議員さんの御質問にお答えいたします。

大化元年六月十四日に御即位されたのは孝徳天皇です。

○一四番（石井輝久君） 私の質問は、千三百年とうたってあるけれども、元号というのは天皇制とともに今日まで歴史的に使われてきたという歴史的な事実があるので、千三百年前に元号が始まったという、千三百年の長い間にわたって使われてきたということなんで、いまの答弁は元号が始まったのは千三百年前ということ

なんです、これは歴史的な事実じゃなろうということを言っているんです。

提案者の各位慎重に案文を作られたと思いますが、元号の、日本の、一番最初使われたのは何天皇で、どういう元号から始まったのかお伺いします。

○二三番（菊井敏博君） ですから大化元年に、西暦六百四十五年から元号のあれが始まって、そのときの天皇は孝徳天皇。千三百年というのは長い間ということだ、ということです。

○一四番（石井輝久君） 私の調査ですと、西暦五百三十八年、欽明天皇五年のときに宣化という元号から始まった、これは歴史的な事実ですから、これは間違っていたらちほど取り消しますけれども、私の調査では欽明天皇五年、西暦でいうと五百三十八年日本の元号の初めは宣化という元号から始まった。したがってこれは計算いたしますといまから千四百四十年前、したがって千三百年という数字が間違っていると、私はこういう指摘をするわけです。お答えを願います。

○二三番（菊井敏博君） 私は、大化から、西暦六百四十五年から元号は大化から始まって孝徳天皇だというふうに理解します。

○一四番（石井輝久君） これは平行線のようにですが、平行線じゃないんですよ。歴史的な事実ですから、私もし間違っていたら取り消しますけれども、元号の開始は日本では西暦で五百三十八年、その天皇は欽明天皇、しかも欽明天皇が天皇即位五年後に宣化ということで元号が始まった、こういうわけでございます。いまの答弁はちょっと間違っていると私は指摘しながら質問をするわけです。

内閣に出す意見書でもございますし、千三百年というふうにはつきり数字をうたっていますから、ちょっと館山市議会としては歴史的事実に反するとすると、何ていうか議会の權威にもかかわる問題であり、歴史的事実ですから、慎重に取り扱いをしていただきたいと思います。

西暦で六百四十五年というのは、大化の改新が行われたとき、これは中大兄皇子が蘇我入鹿を宮中で暗殺をして、一種のクーデターを起こしまして、それが大化の改新といふ歴史的にいわれている、それが西暦六百四十五年、そのときはすでに元号は使われていたんです。歴史的事実に間違いがありやしないかということとを発言しているわけです。

○議長（吉田勇治郎君） 議長から申し上げます。

ただいま意見が出ましたが、この歴史的事実というようなことにつきまして、なるほど歴史でございます、なかなかむずかしいと思いますが、それにつきまして原文の中の「千三百年」というのを「千三百年余」ということで、議長の整理権の中でこれをお認めすることはいかがでしょう。

○四番（石井輝久君） これはちょっと、計算すると千四百四十年ですね、千三百年代じ。ないんですよ。いまから逆算をしていくと千四百四十年前なんです。だから千三百年余ということになる……。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十一時十八分 休憩

午前十一時三十四分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○二三番（菊井敏博君） 私は三省堂発行の日本史年表によって大化元年孝徳天皇ということをお答えしてまいりましたが、いま石井議員さんとのやりとりの中において、千三百年、千四百年というものの法的根拠が不明なため、私の提案理由というものは長い間ということでございますので、千三百年という文字を削除していただきたいと思います。

議案の訂正

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま提案者より「千三百年の」を削除いたしたい旨の発言がございましたが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって「千三百年の」は削除することに決定いたしました。

他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

討論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論に入ります。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は元号法制化に関する意見書に反対の討論を行います。

この意見書の内容を見ますと、「国民生活のあらゆる面に慣習として広く定着している。」と、そういうことと同時に、歴史的伝統として存続したいというのがこの内容であろうかと思えます。「国民生活のあらゆる面に慣習として広く定着している。」とい

うことは、われわれが現になんの不自由もなく西暦あるいは昭和というような元号を使用しているわけで、いま改正しなければ、改正といえますか、法制化しなければならぬという根拠ははっきりしていません。説明では大多数が望んでいるといわれましたが、この問題については賛成する人も反対する人もあって、国民の合意を得ているというような時期にはないと思います。それだけに論争がされているわけですが、むしろ問題は、なぜいまの時期にこういう元号法制化の問題が出てきたか、そこに大きな問題があるかと思っています。

最近の情勢を見ますと、政府が国会で問題にしているいろいろなものがありますが、特に最近の情勢の中で軍国主義を復活するような動きが相当強くあらわれています。「君が代」を国歌化してこれを教育の分野に押し付ける、また教育勅語を礼賛するといふようなことが、大臣の中にもそういうことを言う人が出ています。さらに弁護人抜き裁判を結局法律で決めようとする動きが、靖国神社の、護国神社としての、法律で国の行事として認めさせようというような動きや、あるいは有事立法というような形で、アメリカの極東戦略に基づいた安保条約による、第五条による共同作戦で、日本の自衛隊がアメリカの起こした戦争に巻き込まれるというような状況が、最近の国会の論争の中でやられています。こういうような状況を総合的に判断いたしますと、この元号法制化の問題もその一環として、あるいは憲法を改正する前提に立って天皇制を復活しようというような動きがかなり強く情報として出ております。

こういうような観点から見ますと、元号法制化は結局何も現在

われわれは不自由をしていないのにいまこれを決めるというところ、有事立法やその他の関連で非常に軍国主義復活の方向に強められるということで、この元号法制化に関する意見書については反対する次第でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま発議案第五号一般消費税の導入に関する意見書案が提出されました。この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議 案 の 配 付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（吉田勇治郎君） 議案の配付漏れはございませんか、——
配付漏れなしと認めます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 発議案第五号一般消費税の導入に関する

意見書案を議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

発議案第五号 一般消費税の導入に関する意見書について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。

（二三番議員菊井敏博君登壇）（拍手）

○二三番（菊井敏博君） 発議案第五号一般消費税導入に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

一般消費税につきましては、税制調査会による試案が発表されてから各方面において論議されておりますことは御承知のとおりでございます。

国民生活に多大な影響を及ぼす本税については、国民の合意が十分でない現段階での導入は問題があるものと考えられます。

したがって、この際本市議会といたしましても、諸般の情勢を勘案し、本税の導入については慎重に対処するよう政府に要望いたしました。お手元に配付のとおり七名の賛成者を得て本案を

提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終了しました。

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） この意見書の内容を見ますと、「一般消費税の導入は国民に多大な影響を及ぼすことは必至である。」「そういうことなら当然反対の方向でいかなければならないと思うんです。

消費税の導入が、大体政府は五十五年の一月を想定しているというようなことは新聞報道で書かれておりますが、そうなりますとこれは本年度予算との関連で実施の方向に踏み切る傾向は強いわけです。そうだとすれば、国民生活に大きな影響を及ぼすということならば、反対として、意見書の内容がそういう方向でなければならぬ。慎重審議ということでは反対の意向をはっきり出していいわけです。

前に出した一般消費税の導入に関する請願書では反対の方向を出しているわけです。そういう前の請願書では反対、それが継続審査になる。慎重審議するというのが、ただいまここでもって可決しようとするような内容として出てきている。非常に矛盾するわけです。

実際に国民生活に大きな影響を及ぼす、政府がやろうとしている一般消費税の導入というのは、非常に大きな影響——しかも国

民だけではないですよ、自治体も財源持ち出しが多くなるという通告質問でも明らかにしたように、これは悪税ですから、それに対して慎重審議というのは——慎重審議の時代じゃないですよ。

そういうことが出てくるのがある程度はつきりしているから、それを阻止するような立場の意見書なら問題ないんですが、その点がはつきりしていないで質問いたします。

○二三番（菊井敏博君） 渡辺さんの御質問ごもっともでございます。この税を導入することに、非常にわれわれの生活上も問題があるわけでございます。しかしながらこれは国政の問題であり、まだはつきり固っていない現在でございますので、慎重にやっていただきたいという要望を出すものでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） これは当然政治の問題だから意見書を出すわけですが、まだ固まってないというけれども、かなり固まっているわけですよ。大体新聞を見ても一戸当たりの負担が平均して八万三千二百九十二円、これだけの負担になるわけです。特に勤労者は現在の源泉所得税の上に一・七八倍の税の超過になるということがはつきり出ているわけです。そのような内容——税率五%の場合ですよ。

先だって通告質問の中でお聞きした、一般地方財政に対する財源問題、これはどうなるかという問題では、市町村のベースで七百五十七億の持ち出しになるわけです。税の収入と一般建築関係とか消費、そういうような面で経常費を加えていくと、それだけのむしろ税金よりも持ち出しのほうが多くなるという、そういう結果も出ていますから、大体五十五年の一月から実施されるというののはほぼ確定していますから、われわれは、そういう悪税なら反

対するというのがわれわれ議員の立場ではないかと思うんです。それを慎重審議しろというのは、政府のほうは慎重審議して出しきようとしているわけです。ただ慎重審議だけでは非常に不安だと考えますが、その点はどうなんです。

○二三番（菊井敏博君） ただいまもお答えいたしましたとおり、まだ財政の健全化のためには行政の合理化を図り、合わせて税制の全般を見直し、そのような問題があるわけでございます。その中においてただいま一般消費税の問題がまだはつきり固まっていないう中で反対するということは、提案者としておかしいんじゃないか、そこに十二分に慎重にやっていただきたいということを要望するわけでございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） 本案については委員会付託を省略いたします。御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は一般消費税導入に関する意見書に反対の討論を行います。

この内容を見ますと、「一般消費税の導入は国民生活に多大な影響を及ぼすことは必至である。」、全くそのとおりだと思ふんです。その内容は、消費税が導入されますと一戸当たりでも大変な税負担になり、しかも逆進性が強いということです。一般消費税の中で所得の少ない人が、これは物価にかかってくるわけですから、国民生活を大きくおびやかすということで、これは政府の税制調査会の案が発表された当時から国民の中で大きな問題になって、それに対する反対運動がかなり全国的に進められているわけです。ですから、慎重審議されるようにというような意見書では、意見書にならない内容だと思ふんです。

すでに、五十五年の一月から政府は実施しようとしている、それは当然今年度の予算との関連が出てきますから、相当大きな影響を及ぼす、それが単に国民一般じゃなしに地方財源にとっても大きな問題だと思ふんです。

一般消費税が導入されると、地方財源が潤うのではないかというというような幻想も持たれているわけですが、先だって私が発表したように、一般消費税を導入して地方自治体にどういう影響が起こるかということでは、都道府県ベースでは税率5%とした場合に大体百六十六億円の持ち出しになり、市町村ベースでいくと七百五十七億円の持ち出し増になるということで、一般消費税を導入した場合に地方財源はむしろ減出増しのほう——要するに一般建築事業だとか消費の面とか、備品の面とか、いろいろそういう問題でかなり支出のほうが多くなって、財源としては期待できないというのがはっきり数字の上でも示されているわけです。

したがって、この意見書の内容では、慎重審議という段階を越

えて政府は実施を迫るといふようなところにきているわけですから、この意見書では意味がないといふふうに感じるわけです。

さらに、継続審議になった一般消費税に関する請願書の内容は、そういう国民に非常に大きな負担を及ぼし、あるいは中小業者に非常に計算上——あるいは、むしろこの税がやられるとすれば物価にはね上がって、結局物が売れないというような事態を起し、商工業者にとっても大きな問題であります。そういうことから、先般一般消費税導入に反対する請願が出されているわけです。それが継続審議になって、継続審議となると、もういまは予算編成にだんだん入るわけですから、非常に遅れるわけです。そういう点で先ほど継続審議になったのはまずいんじゃないか、おかしいんじゃないかといふことで意見を述べたわけです。

そういう関係とも合わせて、むしろ請願の内容で反対する立場をはっきりさせるための意見書ならともかく、それを薄めるといいますか、後退したような意見書は、私は賛成することはできないわけです。よって一般消費税導入に関する意見書については反対いたします。

以上であります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。討論を終ります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

閉

会 午後零時閉会

○議長(吉田勇治郎君) 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よってこれにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十四号乃至議案第五十八号

一、請願第二号

一、発議案第四号、議案の訂正

一、日程追加・発議案第五号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉 田 勇 治 郎

館山市議會議員

石 井 輝 久

館山市議會議員

石 井 武 敏

